

「次世代の学校」における教員等の養成・研修，マネジメント機能強化に関する総合的研究 (研究代表者：猿田祐嗣初等中等教育研究部長，研究期間：平成29年度～平成30年度)

【研究目的】これからの時代に必要な資質・能力を子供たちに確実に育み，多様な子供たちが持つ能力を最大限に伸ばさせるとともに，学校と地域の連携・協働によって社会総がかりで実現を目指す「次世代の学校」における教員等の資質・能力，マネジメント機能を高めるための方策検討に資する知見を提供することである。「次世代の学校」を実現する上で検討すべき柱が三つある。第一は，教員等の養成・研修である。第二は，マネジメント機能強化である。第三は，教職員の指導体制の充実である。これらについて以下の3班に分かれ，教育政策形成に資するべく，総合的な研究を行う。

①教員等の養成・研修に関する研究班

(班長：松尾知明フェロー)

【研究目的】諸外国の教員養成における教員の資質・能力スタンダードの活用の現状に関する調査を行うことを通じて，教育公務員特例法改正により導入された「教員育成指標」の活用方策に資する知見を提供する。



【研究成果】イギリス，ドイツ，フランス，フィンランド，アメリカ，オーストラリア，ニュージーランド，シンガポール，韓国，日本の10か国を対象に比較研究を実施した。「(ア) 目標としてのスタンダード」，「(イ) 規準(基準)としてのスタンダード」，「(ウ) 教育システムの基点としてのスタンダード」といった三つの視点を導入することによって，日本の教員育成指標の特徴を明らかにした。日本においては，目標としての内容スタンダードの機能が当てられているが，今後，スタンダードに基づく教育システムへと展開されていくのかという課題を提起した。



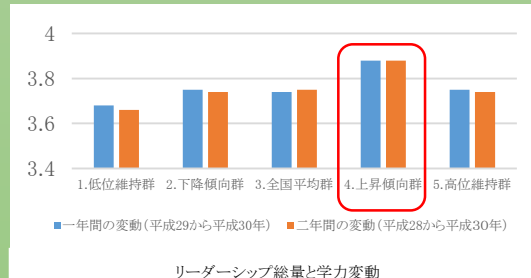
②マネジメント機能強化に関する研究班

(班長：藤原文雄副部長・総括研究官)

【研究目的】「次世代の学校」の実現を先導し，マネジメント機能強化を支援することが期待される教育長・指導主事のリーダーシップ及びコンピテンシー向上のための方策検討に資する知見を提供する



【研究成果】(1)教育長のリーダーシップモデル，教育長のリーダーシップによる学力への影響過程，リーダーシップ総量と学力変動との関係(下図)，(2)教育センター指導主事のコンピテンシーモデル，教育センターが人材育成を図る上で直面している課題，教育センター指導主事の資質・能力及び意欲を高め得る要因，(3)諸外国における学校支援を担当する機関及び担当するスタッフの専門性を担保する仕組み等について明らかにした。



③教職員の指導体制の充実に関する研究班

(班長：山森光陽総括研究官)

【研究目的】児童生徒一教師比の縮小によって実現可能な新たな学習指導形態の開発とその効果の実証的検討を行うことを通じて，教職員の指導体制充実に関連する知見を提供する。



【研究成果】(1)学級規模及び学年・学校規模による教員間相互交渉(形成的評価の準備のための同教科教員間の協同)の状況の違い，(2)学級規模と児童の学習目標志向性(自己の有能さを伸ばし，新しいことの習得を目指す志向性)との関係，(3)小規模学級の特性を生かした指導形態，小規模学級の一斉指導，通常規模学級の一斉指導の3群間による授業中における教師の指導の状況と児童の学習行動の違い(下図)について明らかにした。

